

新春駅伝小史

はじめに

新春駅伝競走大会は、東京西部の高校生アスリートたちの冬の風物詩となっています。秋の都駅伝は全国へ、関東へと目指す大会で、勝負がかかっている真剣勝負ですが、新春駅伝は、もっと楽しく、もっとおおらかに生徒たちの力を発揮させることを目標としたものです。1996年度までは、この新春駅伝は成人の日（当時は1月15日）に第5，6支部だけが行う形のもので、国立サイクリングロード（多摩川土手）で行われていました。関戸橋を折返し地点にした大会で、青柳の交差点から入った多摩川土手の公園付近が発着点になっていました。第4支部はこれとは別に、新人駅伝ということで支部単独で大会を行っていました。これを統合しようという動きが1997年度に深沢詠治先生（日大二）から提案され、その年から東京西部を包括する大きな大会となりました。

第1回大会…1998. 1. 15 府中 雪で中止

平成10年（1998年）1月15日（祝）府中サイクリング道路（郷土の森公園南側の多摩川の土手）で4、5、6支部合同の初めての新春駅伝大会が開催されることになった。これまで、第4支部は府中市の多摩川の土手など、第5，6支部は国立市の多摩川の土手を中心に新人駅伝あるいは新春駅伝と称して大会を行っていたが、第4支部から合同で大会運営をとという申し出があり、東京西地区合同の大会開催のはこびとなった。当時の支部長は深沢詠治先生（日大二）、中村豊先生（明星学園）、本田直明先生（都田無工業（当時））。距離は現在と同じ男子5000m×4区間、女子3000m×4区間で、ロードレースは設定しなかった。大会名はいろいろと論議があった末、本田第6支部長の発案により、「多摩川新春駅伝競走大会」と名付けられた。

スケジュールは朝8時30分受付、9時15分コール、10時男子出発、11時30分女子出発で、午前中で終了する予定だった。しかし、大会前日、大雪となった。夜連絡をまわし、中止とした。当日朝、支部長など関係者だけが、集合場所地点に朝8時に集まって雪見をした。幸い生徒はだれも現れなかった。予備日がなかったので、中止となった。交通事故1件（怪我なし）。

〈文責 吉崎正恒〉

第2回大会…1999. 1. 15 府中 はじめての実施

平成11年（1999年）1月15日（祝）前年度と同じ計画で、府中サイクリング道路で大会が行われた。滞りなく終了した。記録が現在残っていないため、優勝校などは不明である（資料をお持ちの方がいらっしゃれば、ぜひ支部長までご連絡をいただきたい）。女子は松が谷が優勝したということのみ分かっている。

タイムポケットというコンピュータ管理できる形の計時装置を導入し、スムーズな記録集計が可能になった。支部長は、深沢詠治先生（日大二）、中村豊先生（明星学園）、本田直明先生（都田無工業（当時））。

〈文責 吉崎正恒〉

第3回大会…2000. 1. 23 昭和記念公園へ会場変更 日程も変更

平成12年（2000年）1月23日（日）場所を国営昭和記念公園に移して行われることになった。これに伴い、平成11年度当初から秋本嘉一先生を中心に公園側との話し合いを持ち、打ち合わせを繰り返した。支部長は山本弘先生（世田谷学園）、中村豊先生（明星学園）、秋本嘉一先生（都東大和（当時））。

昭和記念公園に場所を移した理由のうち、大きなことは、将来的に都駅伝をここでやる可能性が大であるということがあった。しかし、実施には大きなハードルがいくつもあり、許可が下りたあとも、何度も管理用道路を距離測定器で測り、スタート位置の検討や当日の流れなどを考えるにあたって試行錯誤が繰り返された。時程も入園時間の9時30分から考えると、午前中にすべてが終わる大会にはできないということになり、弁当の必要性や1日仕事になるつらさなどが話し合われた。

幸い、管理用道路が約5kmだったので、コース設定はうまくいきそうだった。土壇場になって、管理用道路の立入禁止区間に立ち入るための申請書を国土省に出すように言われたり、いちよう並木を使うことを禁じられたりした。さらに、参加者からは入園料が高価であるという指摘を受け、急遽、仮入園券による入場を決定、最初のことで受け渡しもぎりぎりになり、支部委員の先生方に入園口で券を配付してもらうなどの処置で乗り切った。

大会当日根本審判長（中大杉並）のご挨拶で幕開けとなった。天候にもめぐまれ、満足のいく大会であった。学校受付10時、招集10時30分、女子駅伝スタート11時30分、男子駅伝スタート12時30分という時間設定で、3時15分表彰式、4時完全撤収という形で終了した。

入園料や駐車料金がかかりすぎることで、記録室が完備できないことなどのため、今回かぎりではやめようという声もあり、事前にはその方向に流れかけていたが、実際にやってみると、生徒たちの満足度も大きく、来年度も同じ形で行おうという声があがった。なお、この年に設定したコースは、スタート地点・女子折返地点・ゴール地点などすべて現在まで変更されていない。

ロードレースはまだ設定されておらず、男子117チーム、女子38チームの参加、合計620名が新しいコースを走った。男子優勝は八王子（宇津木・牧野・小島・萩谷）、女子優勝は久我山（小林・古川原・斉藤・池田）だった。男子2位以下、都国立、久我山、東亜学園、駒沢大高、都八王子東など、女子は藤村女子、桜華女学院、都北多摩、都松が谷、東海大菅生、都調布北、二階堂、都国分寺などであった。なお、前年までは1月15日が成人の日ということで祝日であったが、この年から成人の日が移動したため、1月15日実施という形が崩れることになった。

〈文責 吉崎正恒〉

第4回大会…2001. 1. 21 昭和記念公園 雪で中止

平成13年（2001年）1月21日（日）前年度のレース形態に加え、ロードレースを新たに入れることにして、予定をたてた。前年度実績があったため、準備は滞りなく終わり、当日を迎えることになった。

ところが前夜から大雪に見舞われて中止。中止連絡を流したのが前日夕刻だったため、全参加校に連絡がまわるかどうか、不安だったが、あまりに大雪だったので、参加者も来ようにも来られなかった。弁当も前夜にキャンセルできた。朝9時に支部長など関係者が西立川口に集合、来る生徒を待ったが、1名来ただけだった。当日はとてもいい天気、雪が陽の光に輝き、美しい景色だった。参加費はすべて後日返還した。予備日がなかったので、中止となった。支部長は山本弘先生（世田谷学園）、原田伸宏先生（都府中工業（当時））、小野一夫先生（八王子実践）。

〈文責 吉崎正恒〉

第5回大会…2002. 1. 20 昭和記念公園 大会名変更 ロードレース導入

平成14年（2002年）1月20日（日）に実施。大会名に「多摩川」がつくのはおかしいという声があり、「新春駅伝競走大会」という大会名に変更した。また、昨年のもあり、開催予備日を設けることになった。

男子102チーム、女子36チームが出場。男子は大会記録を塗り替えて早稲田実業が優勝。2位以下は堀越、駒大高、中大附、八王子、都南多摩など。男子個人トップの宇佐美淳（早実）が出した記録15分22秒は現在も残っている。女子優勝は八王子、2位以下都北多摩、藤村女子、国士舘、都西、学大附、桜華女学院、都東大和などであった。女子個人トップの大久保絵里選手（八王子3年）が出した記録9分57秒も現在まで破られていない。ロードレースを含んで変更した時程も順調であり、現在まで変更されていない。支部長は小田保夫先生（東亜学園）、原田伸宏先生（都府中工業（当時））、小野一夫先生（八王子実践）。

〈文責 吉崎正恒〉

第6回大会…2003. 1. 19 昭和記念公園 関東駅伝をひかえて

平成15年（2003年）1月19日（日）に実施。この年、秋に都駅伝、関東駅伝が昭和記念公園で行われる予定だったため、他支部からも視察の方々がみえた。支部長は小田保夫先生（東亜学園）、原田伸宏先生（都府中工業（当時））、小野一夫先生（八王子実践）。

男子118チーム、女子35チームが出場。男子優勝は駒大高、以下、堀越、都南多摩、久我山、東亜学園、玉川学園、早実など。女子は堀越が大会新記録44分00秒で優勝。この記録は現在まで残っている。以下、八王子、都東大和、藤村女子、都南多摩、久我山、都野津田、都八王子東、玉川学園など。タイムポケットというコンピュータ管理計時装置が生産中止になったため、新しく、スーパーアスリートという腕時計型の装置に変更した。

〈文責 吉崎正恒〉

第7回大会…2004. 1. 18 昭和記念公園 前日は雪 関東駅伝を終えて

平成16年（2004年）1月18日（日）に実施、前年の2003年11月初めに都駅伝、11月下旬に関東駅伝を経験し、昭和記念公園を使用するのが3回目となった年度だった。やや疲れ気味の中で準備は例年の通り。前日の17日午後から雪が降り始め、積もる様相だった。どうするか、ぎりぎりの判断の中、弁当の発注限界がきて、とりあえず実施の方向とした。

当日、早朝入園して点検したところ、可能という判断で、実施となった。ただし、雪が残っているところにカルコートをまいたり、スコップで雪かきをしたりして、準備には手間がかかったが、支部委員の先生方の手でなんとかこなせ、予定通りの発走ができた。すばらしい雪景色を楽しみながらのレースとなった。他の支部は中止となった。支部長は加藤恭位先生（都西）、原田伸宏先生（都府中工業（当時））、川島利治先生（都南多摩）。

男子は113チーム、女子は40チームが出場。男子は堀越が大会新記録1時間02分44秒で優勝。この記録は現在まで残っている。以下拓大一、駒大高、八王子、都南多摩、東亜学園など。男子個人トップの木下卓巳（堀越）は大会タイ記録の15分22秒を出した。女子は優勝八王子、以下久我山、都北多摩、都八王子東、学大附、都東大和、藤村女子、都国分寺、都昭和、都西など。

〈文責 吉崎正恒〉

第8回大会…2005. 1. 16 昭和記念公園 大雨の中で実施

平成17年（2005年）1月16日（日）に実施。前年度に続き、前日の15日に冷たい雨が降り、このまま雪にかわるかと思われたが、前年度同様、ぎりぎりのところで判断し、決行をきめた。当日、大雨の中であり、うんどう広場がぬかるんでいたため、いちよう並木を中継点にした。他の入園者がほぼいなかったため、クレームはつかなかったが、大変な1日であった。他の1～3支部はすべて中止、この大会だけが全都で唯一の新春駅伝となった。疲労は激しく、また棄権したチームもあったが、アスリートとしての根性を鍛えるにはよかったかもしれない。支部長は加藤恭位先生（都西）、三國一成先生（都野津田）、川島利治先生（都南多摩）。

男子123チーム、女子45チームが出場。男女とも優勝は八王子だった。男子2位以下は早実、久我山、都南多摩、東亜学園、駒大高、拓大一など。女子は都北多摩、都東大和、都南多摩、都西、日大二、穎明館、学大附など。前年度優勝の堀越はメンバー不在のため駅伝に出場しなかったが、木下卓巳（堀越3年）はロードに出場、これまでのコースレコードを破る15分20秒をマークした。

〈文責 吉崎正恒〉

第9回大会…2006. 2. 5 昭和記念公園 雪のため順延して実施

平成18年（2006年）2月5日（日）に実施。本来の実施予定は1月22日（日）であった。しかしその当日に、私学の推薦入試が一斉に実施されることが秋になってから決定。準備時点で混乱が生じた。さらに、前日から雪模様。21日（土）午前の段階で延期を決定した。

22日は大雪となった。前の2年（2004, 2005年）に実施を見送った第2, 3支部はこの22日にはどうしてもやりたいということで、選手を会場に集めたものの実施不可であり、3年連続の中止になったとのことであった。

2月5日は晴天で、おだやかな1日であった。すべて予定とおりにレースが行われた。予定が変更になったため学校行事などで参加ができないチームもあり、男子36チーム、女子19チームが棄権したが、ほぼ正常に日程をこなした。支部長は合田浩二先生（筑波大附駒場）、三國一成先生（都野津田）、川島利治先生（都南多摩）。

男子105チーム、女子49チームが出場。男子優勝は拓大一。2位以下は都南多摩、久我山、堀越、八王子、中大附属、東亜学園、都東大和など。女子優勝は八王子。2位以下は拓大一、都北多摩、都東大和、久我山、都南多摩、中大附属、都南平など。

〈文責 吉崎正恒〉

第10回大会…2007. 1. 21 昭和記念公園 また雪の心配あり

平成19年（2007年）1月21日（日）に実施。前日から雪が降るという予報で、不安があり、また寒さの厳しい曇天の中ではあったが、当日はなんとか無事に開催できた。

大会の1月前に昭和記念公園側より連絡があり、いちよう並木をスタート地点にすることはできないとのことであった。急遽、スタート位置を北側の通路に変更。道幅がやや狭く、また緩やかな下り坂になっているため、危険かと思われたが、幸い事故はなかった。なお、サイクリングロードで練習をしていたチームがあり、厳しく指摘された。

支部長は合田浩二先生（筑波大附駒場）、三國一成先生（都野津田）、林健司先生（明大中野八

王子)。

男子107チーム、女子55チームが出場。男子優勝は拓大一。2位以下は早実、八王子、都南多摩、都若葉総合、駒大高、都南平、中大附属、明中八王子など。女子優勝は八王子。2位以下は国士舘、拓大一、都若葉総合、都武蔵、都西、中大附属、日大櫻丘、都北多摩など。久しぶりに男子個人に大会新記録およびタイ記録が出た。西城裕堯（早実1年）15分11秒…大会新、山下堯哉（拓大一2年）15分14秒…大会新、伊藤和麻（早実3年）15分20秒…大会タイ。

〈文責 吉崎正恒〉

第11回大会…2008. 1. 20 昭和記念公園 晴天。すべて順調。

平成20年（2008年）1月20日（日）に実施。天気予報では翌日の21日が雪の予報であり、降雪が早まるかとも思われたが、当日は全く問題なく、日だまりが暖かい晴天であった。すべてが順調にいき、理想的な大会であったといえよう。今回、スタート順に男子2列、女子1列のシードチームを置くことを決め、昨年度の結果から、男子22チーム、女子11チームはくじをひかずに前列にスタート位置を定めた。結果、上位チームはスムーズにスタートすることができ、順調に危険なくレースが行われた。

ハプニングとしては、大会1か月半前に、昭和記念公園うんどう広場北側のスタート地点を含む道路が陥没し、工事となったことである。スタート位置はいちょう並木に戻され、われわれとしてはかえってよい結果となった。

支部長は合田浩二先生（筑波大附駒場）、三國一成先生（都野津田）、林健司先生（明大中野八王子）。

男子117チーム、女子53チームが出場。男子優勝は早実で、都駅伝では拓大一に後塵を拝したものの、今大会では圧倒的な強さを発揮した。2位以下は東亜学園、拓大一、都若葉総合、明中八王子、都南多摩、駒大高、明大中野、八王子など。女子優勝は八王子で、都駅伝で3連覇を達成した実力を十分に見せた。2位以下は明中八王子、都若葉総合、国士舘、中大附属、駒大高、都南平、都北多摩、日大櫻丘など。

なお、長らく記録主任を務め、この新春駅伝の大黒柱であった佐藤聖一先生（元都八王子北）が移籍のため大会に不在であったことには寂しさを感じざるを得なかった。

〈文責 吉崎正恒〉

第12回大会…2009. 1. 18 昭和記念公園 曇天。すべて順調。

平成21年（2009年）1月18日（日）に実施。天気予報では夕方から雨ということであったが、朝8時ごろから小雨が降り出し、慌てる一面があった。寒さは厳しかったが、滞りなく競技が行われた。今回はスタート順のシードを増やし、男子3列、女子2列のシードチームを置いた。スタート位置は北側の通路であり、下り坂になっているため、危険な状況であったが、怪我もなくスタートできた。

支部長は昨年度と同じ合田浩二先生（筑波大附駒場）、三國一成先生（都野津田）、林健司先生（明大中野八王子）。

男子の参加は史上最大の133チーム、女子は51チームが出場。男子優勝は拓大一、女子優勝は八王子。男女とも都駅伝と同じ結果となった。男子2位以下は都南多摩、都国立、都若葉総合、八王子、明中八王子、東亜学園、日大二など。女子2位以下は拓大一、都上水、中大附属、駒大高、都国立、明中八王子、都若葉総合、国士舘など。

昭和記念公園の担当の吉田さんが、異動となるという話があった。

〈文責 吉崎正恒〉

第13回大会…2010. 1. 17 昭和記念公園 晴天。うんどう広場工事。

平成22年（2010年）1月17日（日）に実施。この年は、突然、「うんどう広場」に芝を植える工事がはいることになった。再三の打ち合わせ、協議の結果、「貯水池」と「みんなの原っぱ」を休憩所とし、招集所と表彰式は「フットサルコート」、いちょう並木の北端にスタート・中継点をおいて、いちょう並木に競技を集約する形で行うこととした。混乱が予想されたが、直前の月曜日（祝日）に支部長を中心に計画を変更し、いちょう並木を競技走路・ウォーミングアップ走路・通行路に区分けすることとしたのが功を奏し、無事終了することができた。スタート順のシードは昨年と同じく男子3列、女子2列とした。その他、今回はナンバーを申込時にふらず、主催者が連番にして、送付したプログラムでナンバーを連絡する形にした。その結果、着順判定は非常にやりやすかった。また、電源がとれないため、発電機を2台レンタルした。

支部長は秋本嘉一先生（都芦花）、新井政彦先生（都成瀬）、林健司先生（明大中野八王子）。

男子の参加は133チーム、女子は史上最多の61チームが出場。男子優勝は拓大一、女子優勝は八王子。男子2位以下は早稲田実業、都南多摩、都国立、駒大高、明中八王子、八王子、日大二、都若葉総合、都西など。女子2位以下は都上水、都若葉総合、国士舘、駒大高、都西、都南多摩、中大附属、成蹊、都国立、明中八王子、など。

昭和記念公園の担当は新しく、稲垣さんとなった。

〈文責 吉崎正恒〉

第14回大会…2011. 1. 23 こどもの国 晴天。新たな会場

平成23年（2011年）1月23日（日）に実施。22年夏に突然、昭和記念公園から、園内循環のパークトレインのコースが変わり、これまでの駅伝の周回コースを使用するのは不可であるとの通告を受けた。慌てて再三交渉したが、なんともならず、長く使用してきたこのコースと別れを告げることになった。代替のコースが容易に見つかるはずはなく、府中多摩川のコースなどいろいろと検討の結果、いったんは中止にせざるをえないという結論になった。

しかし、一度中止にしてしまうと、二度とできなくなるのではないかとの声もあり、二転三転したあげく、結局「こどもの国」にお願いすることになった。しかし、「こどもの国」は日曜日はコースを貸さない規則になっているということで難航。結果、23日ならばということで、私学の推薦入試の当日であるこの日に決行することとなった。4支部の合田浩二先生（筑波大附駒場）、秋本嘉一先生（都芦花）、増田裕宣先生（中大附属）の尽力でソフトクリームを食べながら園内のコース設定を行い、打ち合わせを重ね、さまざまな危惧もある中、大会開催となった。発電機とコーンなどを町田の業者からレンタル、弁当は横浜の業者に依頼し、牧場口駐車場を借り切って、本部および発着所とし、ともあれ成功裡に終了することができた。スタート直後に急な上り坂になる過酷な4400mのレースで、男女との同コース、同距離。ロードレースは男女同時スタートという形で行われたが、思ったよりも違和感もなく、トラブルもなかった。抜けるような青空であったことも幸いした。

支部長は秋本嘉一先生（都芦花）、増田裕宣先生（中大附属）、林健司先生（明大中野八王子）。

やはり遠いせいか、参加校は例年よりも少なく男子の参加は109チーム、女子は48チームが出場。男子優勝は都南多摩、女子優勝は都上水。男子2位以下は都若葉総合、明中八王子、中

大附属、日大櫻丘、都国立、都西など。女子2位以下は都若葉総合、八王子、都国立、都田無、中大附属、国土館、駒大高、都国分寺など。

〈文責 吉崎正恒〉

第15回大会…2012. 1. 29 こどもの国 晴天。

平成24年（2012年）1月29日（日）に実施。昨年に引き続き、こどもの国の4kmコースで行われた。天候にも恵まれ、やや風が強く寒さも厳しいものの、無事終了できた。

支部長は秋本嘉一先生（都芦花）、増田裕宣先生（中大附属）、川瀬一輝先生（穎明館）。

男子の参加は116チーム、女子は56チームが出場。男子優勝は都若葉総合、女子優勝は八王子。男子2位以下は拓大一、都松が谷、都国立、明大中野、都三鷹、成蹊、東亜学園、都青梅総合、都南多摩、専大附属など。女子2位以下は都上水、駒大高、都若葉総合、国土館、早稲田実業、都国立、日大鶴ヶ丘、都田無、都西、錦城、都南多摩など。

大変に困惑したことに、こどもの国から、来年度は開催を断りたいという旨の通告があった。日曜祭日に、コースを占有するのは問題があり、公園の経営上の問題ということであった。大会後、支部全体の問題として話し合ったが、結論は出ずに、年度末を迎えることとなった。

〈文責 吉崎正恒〉

第16回大会…2013. 1. 14 府中多摩川かぜのみち 大雪中止。

平成25年（2013年）1月14日（月）に実施予定であったが、当日朝から雨、途中雪に変わり、相当に降り、中止となった。中止を決めたのは前日13日（日）午後6時の天気予報の段階であり、すぐにホームページに中止を掲載、また各校の顧問に携帯メール（ショートメール）を送った。当日、4支部長秋本嘉一先生（都芦花）、5支部長増田裕宣先生（中大附属）の二人が現場に向かったが、だれも来る生徒はいなかった。無事に連絡がついたということである。なお、弁当は天候が危ぶまれていたので、秋本先生の判断で前日13日の朝の時点でキャンセルしていたため、費用はかからなかった。

なお、今回の大会はこどもの国を追われて、開催地に大変困っていたが、秋本嘉一先生の英断で府中多摩川サイクリングロードを決定、府中陸協の和中信男先生（元桐朋）のお力もあり、開催できるところまでこぎつけた。物品の手配は6支部長川瀬一輝先生（穎明館）が万事整えていた。今回から申込もウェブ申込となり、プログラムも印刷所に依頼した。開催できなかったことは残念だったが、今後の大会運営のために大いに有意義であった。なお、参加費の返金は春季競技会の申込時（3月）に行った。

〈文責 吉崎正恒〉

第17回大会…2014. 1. 12 府中多摩川かぜのみち 晴天

平成26年（2014年）1月12日（日）に実施。はじめてのコースで実施された。晴天が続いていたため、路上に水たまりなどがほとんどなく、コンディションのよい状況で、天候に恵まれて無事に終了した。男子5km×4、女子3km×4の駅伝となった。

支部長は上野正行（農大一）、柳澤真宏（都若葉総合）、川瀬一輝先生（穎明館）。

男子の参加は102チーム、女子は52チームが出場。ただし、今回、チーム数を各校男女それぞれ2チームに限ったため、例年よりは少ない参加となった。男子優勝は拓大一、女子優勝は八王子。男子2位以下は都日野台、都上水、成蹊、八王子、昭和第一学園、明中八王子、都若葉

総合、都南多摩など。女子2位以下は都上水、都若葉総合、早稲田実業、駒大高、昭和第一学園、都若葉総合、国士館、明中八王子、都武蔵、都三鷹など。

自転車との接触が懸念され、今後の問題となった。このコースにはいろいろと問題があることはわかるが、といって、他にコースの候補地がない状況である。

〈文責 吉崎正恒〉

第18回大会…2015. 1. 11 府中多摩川かぜのみち 晴天

平成27年（2015年）1月11日（日）に実施。今回も晴天が続いていたため、路上に水たまりなどがほとんどなく、コンディションのよい状況で、天候に恵まれて無事に終了した。男子5km×4、女子3km×4の駅伝となった。

支部長は昨年度と同じ、上野正行（農大一）、柳澤真宏（都若葉総合）、川瀬一輝先生（穎明館）。

男子の参加は96チーム、女子は55チームが出場。今回もチーム数を各校男女それぞれ2チームに限った。男子優勝は國學院久我山、女子優勝は八王子。男子2位以下は都若葉総合、拓大一、昭和第一学園、都国立、成蹊、八王子、都上水、都野津田、都市大附属、日大櫻丘、日大二など。女子2位以下は都若葉総合、早稲田実業、国士館、都上水、都東大和、都日野台、都豊多摩、中大附属、都国立、三鷹中等、都武蔵、東亜学園、吉祥女子など。

中継点のサッカー場から土手に出る地点の審判員を増員し、自転車との交錯の対策を練り、行えたので、昨年よりも安全に実施できた。なによりも快晴で暖かい天気が幸いし、さわやかに終了することができた。

〈文責 吉崎正恒〉

第19回大会…2016. 1. 10 府中多摩川かぜのみち 快晴

平成28年（2016年）1月10日（日）に実施。特別な暖冬であり、また今回も晴天が続いていたため、路上に水たまりなどが全くなく、コンディションのよい状況で、天候に恵まれて無事に終了した。男子5km×4、女子3km×4の駅伝となった。

支部長は、上野正行（農大一）、柳澤真宏（都若葉総合）、長谷川英樹先生（東海大学菅生）。

男子の参加は107チーム、女子は57チームが出場。今回もチーム数を各校男女それぞれ2チームに限った。男子優勝は拓大一、女子優勝は八王子。男子2位以下は都若葉総合、拓大一、都日野台、都松が谷、都東大和、成蹊、八王子、都松が谷、中大杉並など。女子2位以下は都上水、都日野台、国士館、駒大高、都豊多摩、都東大和、明中八王子、都国立、都若葉総合、都武蔵野北など。

今年も中継点のサッカー場から土手に出る地点の審判員を増員し、自転車との交錯の対策を練ったが、今年は特に自転車の通行が多く、今後の課題が増えた面があった。しかし、事故なく行うことができ、快晴で暖かい天気が幸いし、今年もまたさわやかに終了することができた。

★ 第20回大会は当初、2017年1月に予定されていたが、サッカー場がどうしてもすべての休日に使用することができず、繰り返しの申請も却下され、中止となった。2018年1月にはぜひやりたいということで、日程的には無理があるが、1月5日に行おうということで、5支部元支部長柳澤先生の尽力のもと、道が開かれた。

〈文責 吉崎正恒（都東大和）〉

第20回大会…2018. 1. 5 府中多摩川かぜのみち 快晴

平成30年（2018年）1月5日（金）に実施。特別な暖冬であり、また今回も晴天が続いていたため、路上に水たまりなどが全くなく、コンディションのよい状況で、天候に恵まれて無事に終了した。男子5km×4、女子3km×4の駅伝となった。今回は初めての平日開催であり、しかも、正月明けという状況だったためか、参加校が少なく、審判員も足りないところが多かった。しかし、平日のよさとして、自転車や散歩する人が極端に少なく、非常に大会運営としては楽であり、安全であった。一昨年までの自転車との交錯に悩むことを考えると、夢のようだった。

支部長は佐藤英之（三田国際）、安藤秀紀（都武蔵野北）、長谷川英樹（東海大学菅生）の3先生がた。男子の参加は70チーム、女子は32チームが出場。今回もチーム数を各校男女それぞれ2チームに限ったが、思いの外出場者が少なかった。男子優勝は都日野台、女子優勝は都上水。男子2位以下は都東大和、八王子、都国立、拓大一、日大三、都田無、都立川など。女子2位以下は都若葉総合、都東大和、都田無、日体桜華、都日野台、都立川、日大二、東海大菅生など。

〈文責 吉崎正恒（都東大和）〉

第21回大会…2019. 1. 7 府中多摩川かぜのみち 快晴

平成31年（2019年）1月7日（月）に実施。風はやや強かったが、太陽の光のあふれた1日であった。今回も晴天が続いていたため、路上に水たまりなどが全くなく、コンディションのよい状況で、天候に恵まれて無事に終了した。男子5km×4、女子3km×4の駅伝となった。今回は昨年度に続き、平日開催であったためか、参加校が少なく、審判員も足りないところが多かった。しかし、昨年同様平日のよさとして、自転車や散歩する人が極端に少なく、非常に大会運営としては楽であり、安全であった。

支部長は佐藤英之（三田国際）、安藤秀紀（都武蔵野北）、長谷川英樹（東海大学菅生）の3先生がた。男子の参加は58チーム、女子は32チームが出場。今回もチーム数を各校男女それぞれ2チームに限ったが、思いの外出場者が少なかった。男女とも優勝は都東大和。第8回大会の八王子以来、大会2度目のアベック優勝となった。男子2位以下は都日野台、八王子、都田無、都国立、都松が谷、都立川、明大中野など。女子2位以下は都上水、都若葉総合、国士舘、日体大桜華、都日野台、都田無、日大鶴ヶ丘、都八王子東、ICUなど。

〈文責 吉崎正恒（都東大和）〉

第22回大会…2020. 1. 7 府中多摩川かぜのみち グランド浸水により中止。

令和2年（2020年）1月7日（火）に実施を予定していた。しかし令和元年東日本台風と名付けられた災害が、令和元年10月12日に台風19号が日本に上陸。記録的な大雨が東日本を襲い、甚大な被害をもたらせた。東京都調布市の多摩川観測点では6.33mの水位を記録し、府中かぜのみちも没してしまった。その被害は激しく4ヶ月では回復することはなく、残念ながら中止となった。このときの支部長は玉森太郎（駒大）、安藤秀紀（都武蔵野北）、小野哲史（日体大桜華）の3先生がた。

〈文責 長谷川英樹（東海大学菅生）〉

第23回大会…2021. 1. 6 府中多摩川かぜのみち 新型コロナのため中止。

令和3年（2021年）1月6日（火）に実施を予定していた。しかし令和3年1月7日に、

新型インフルエンザ等対策特別措置法第 32 条第 1 項の規定に基づき、新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態が発生した旨を宣言し、この特措法が発出されるとの話が報道されるようになった。そこで新型コロナウイルス感染症の罹患・拡散防止のため、やむなく中止の決定をせざるを得なかった。2 年連続の中止によって、1 度もこの駅伝を走らずに終わった選手たちには大変申し訳ない結果となってしまった。このときの支部長は玉森太郎（駒大）、中川信太郎（藤村女子）、小野哲史（日体大桜華）の 3 先生がた。

〈文責 長谷川英樹（東海大学菅生）〉

第 24 回大会…2022. 1. 6 府中多摩川かぜのみち 曇り→雪

令和 4 年（2022 年）1 月 6 日にコロナ禍ではあるが、府中多摩川かぜのみちで 3 年ぶりの実施となった。前日より降雪予報が出ていたので、中止を視野に入れながらも大会実施の判断は当日の天候次第となった。当日は大会途中から小雪が降り始め、ロード終了ごろには雪の降りも激しくなっていき、表彰式を中止にすることを決断した。今回も男子 5km×4、女子 3km×4 の駅伝となった。平日開催であったため参加校が少なく、審判員も足りないというデメリットが見られた。しかし、平日の良さとして、かぜのみちを利用する自転車や人が少なく、大会運営としては安全面を確保できるというメリットもあった。

このときの支部長は仲櫛大吾（駒場東邦）、中川信太郎（藤村女子）、小野哲史（日体大桜華）の 3 先生がた。男子の参加は 62 チーム、女子は 32 チームが出場。今回もチーム数を各校男女それぞれ 2 チームに限ったが、思いの外出場者が少なかった。男女とも優勝は駒大。第 8 回八王子・第 21 回大会都東大和に続き、大会 3 度目のアベック優勝となった。なお、男子の優勝タイムは大会新記録であった。男子 2 位以下は拓大一、都田無、都福生、都東大和、都日野台、玉川学園など。女子 2 位以下は都福生、都東大和、都上水、藤村女、日体大桜華、都西、中大杉並、都昭和など。

〈文責 長谷川英樹（東海大学菅生）〉